

公開講座と講演会

パートナーシップさいたまでは、男女共同参画に関する課題への認識と理解を深めるため各種の講座やイベントを実施しています。

この秋には「さいたま市女性カレッジ」(連続20回)の中から2回を公開講座とし、また、今新たに脚光を浴びている樋口一葉を取り上げ「パートナーシップさいたま秋の講演会」を開催しました。

さいたま市女性カレッジ公開講座

(会場:生涯学習総合センター多目的ホール)

●平成16年10月19日(火)
夫・恋人…近しい男性からの女性への暴力
—それはなぜ起きるのか—

●平成16年11月2日(火)
ドメスティック・バイオレンスの根絶へ
—DV防止法の現在—



(お話) 戒能 民江さん(お茶の水女子大学教授)



DVが起きる背景から、その影響、対策までのお話をした。決して遠い世界で起きていることではなく、身近な人権問題であると感じられた公開講座でした。

DVはとても重いテーマ、その根絶への道のりは険しく厳しいと感じた。DVとは「男性が体力的、経済的優位な立場で妻や子供など近しい関係の人々に対して肉体的、精神的暴力を振るうこと」。

12月に施行された「DV防止改正法」を趣旨に沿って機能させていくためには、警察官、教育者、医師など永年、男性主導の世界に染まってきた関与者の人権教育をベースにした意識改革を併せて図っていかないと、「セクハラ」を「色恋のあや、もつれ」と区分できず後手に回ってきたと同様、DVを単なる「夫婦げんか」と区別できず、被害者にもそれなりの理由が…といった対応の過ちを繰り返してしまいうことになる。

DVをするのは決して特別の人ではない…生活破綻者であるのが紳士であるのが人品を遣はず、あらゆる男性に潜在する…また、横暴と暴力の後、ベッドで仲直り、実は身勝手なDVの上塗りをしていくケース…といった内容の講演を大半が女性受講者の中で聴く自分は身が縮まり居心地は決してよろしくなかったのです。

公開講座を聴いて

私にも潜在

暴力は許せない!

「DV問題なんて私には関係ない。当事者の問題でしょ」と思うこと自体が間違いだと思つた。ちやぶちやぶをひっくり返し、家庭の中で大暴れする夫、子どもを抱えてひたすら耐え忍ぶ妻。この絵は昔から日本の映画・ドラマで頻りに見る夫婦関係でもある。加害者は暴力で相手を「コントロール」し、被害者はじっと耐えるだけという関係は、夫婦や恋人同士の間ならこれまで表沙汰にはならないことだった。ただの「痴話げんか」と見なされ、被害者に対してさえ「好きで夫婦になったんだから、我慢しなさい」といった説教まで出る始末。

身内に対する暴力を容認する社会的な認識こそ一番の問題であると、戒能氏は指摘する。そして、被害者救済は急を要する問題であり、加害者更生プログラムまで手が出ないのが現状らしい。他人事ではない、暴力は犯罪なんだと強く心に刻まれた講座だった。



(編集員・鈴木)

パートナーシップさいたま秋の講演会

(会場:産業文化センター)

●平成16年10月23日(土)
「女性作家・樋口一葉の生～恋、生活、名作の周辺～」



(お話) 菅 聡子さん(お茶の水女子大学助教授)



市在住の菅 聡子さんに自立したひとりの女性としての作家・樋口一葉についてお話をいただきました。

秋の講演会を聴いて

女であるがゆえの評価には一葉もNO!

講演会からの帰り道、すくすく「一葉日記」を読みたくなった。菅さんのお話を聴いたら、一葉の心の内を知りたくなったのだ。一葉はお金のために小説を書いたのだそう。だからといって、一葉が自己実現への欲求と仕事を分けて考えていたわけではないと思う。それは、彼女が小説で得た名声について、自らの日記の中で、自分分が女だということの珍しさだけであだてられているように、不満げにいつていることから感じたのだ。これは今も、成功した女性について世の男性が「これからは女性の時代ですね」とコメントするのを聞いて、虚へなるのを似ているではないか。

一葉が長生きしていたら経済力と共に世間での発言力も増していれば、知る由もない。ただ、新札による一葉ブームが、いまだ対等とはいえない労働環境に問題意識すら持たずにいる男性にはもちろん、女性たちにも、一石を投じてくれたらいい。

(編集員・渡部)

男女共同参画社会とは…

人権尊重の理念に基づき、だれもが性別にとらわれず個性と能力を発揮でき、男女があらゆる分野での方針・政策決定の場に参画できる社会を意味します。

新着図書情報

創刊号の施設紹介で取り上げました情報・資料コーナーに42冊の新着図書が加わりました。どの図書もきっとお役に立てると思います。今回はその中から7冊をご案内いたします。

●人口
「超少子化—危機にたつ日本社会」
鈴木 リエこ:著(集英社新書)

●女性学
「女性学との出会い」
水田 宗子:著(集英社新書)

●働き方
「定年退職と女性」
女性労働問題研究会:編(トメス出版)

●男性論
「男性誌探訪」
高藤 美奈子:著(朝日新聞社)

●福祉
「ジェンダーで読む21世紀の福祉政策」
杉本 貴代栄:著(有斐閣選書)

●法律
「夫婦親子 男女の法律知識」
(自由国民社)

●社会教育
「キャリア形成に生涯学習をいかした女性たち」
(国立女性教育会館)

情報・資料コーナーでは、私たちが共によりよく生きていくためのヒントになるような図書やビデオを収集し貸出しを行っています。ジャンルごとに並べてありますので、気になることを知りたい時のご案内になると思います。

館内にある「図書・資料等利用者登録申請票」に必要な事項をご記入になれば、その日からお貸しできます。詳しくは職員までお尋ねください。